

以下、本文-----

家族性大腸腺腫症患者における胃・十二指腸腫瘍の分子遺伝学的特徴の検討

1. 研究の対象

当院および共同研究機関である石川消化器内科において、2007年1月から2018年12月までに上部消化管内視鏡検査を受けたことのある、家族性大腸腺腫症の既往がある方が対象となります。

2. 研究目的・方法

家族性大腸腺腫症(familial adenomatous polyposis; FAP)は大腸がんを極めて高率に発症する遺伝疾患ですが、また本症では大腸以外の消化管や全身諸臓器にも腫瘍性病変が高率に発生することが知られています。近年では FAP と早期に診断されるケースも増え、予防的大腸切除術を含めた予防治療が行われることにより予後が改善され、大腸外病変が次に重要な疾患になってきています。本邦における FAP 患者における大腸癌以外の死亡原因としては、デスマイド 9.9%、十二指腸がん 5.6%、胃がん 2.8%であったと報告されています。

一般的に胃がんにも最も関連する因子は、ピロリ菌感染およびそれに伴う胃粘膜の萎縮性変化・化生性変化であるとされていますが、FAP 患者ではしばしばピロリ菌感染や胃粘膜萎縮を伴わずに胃がん発生をきたすことがあり、その危険因子についてはまだまだ分かっていません。また、FAP 患者における胃の腫瘍性病変の内視鏡像についての多数例で検討した報告はありません。また FAP 患者の十二指腸腫瘍の危険因子についてもあまり分かっていません。

当院および共同研究機関において FAP の方およびその胃・十二指腸病変に対して診療を行う機会が多く、今回その臨床病理学的特徴や内視鏡像をまとめることで、FAP 合併胃・十二指腸腫瘍の危険因子やその内視鏡所見を中心とした留意すべき所見を抽出し、今後同様の患者さんの診断、治療を行う上で役立つ情報を得ることを目的とします。

当院および共同研究機関である石川消化器内科において、2007年1月から2018年12月までに上部消化管内視鏡検査を受けたことのある、家族性大腸腺腫症の方が対象となります。病歴、治療歴、内視鏡画像を含む各種画像所見、病理組織所見、遺伝子検査結果などのデータを収集・解析し、胃がんを含む胃腫瘍性病変を合併した方々の内視鏡像を中心とした所見の特徴を検討します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：内視鏡で採取した生検検体、内視鏡手術で摘出した組織など

情報：病歴、治療歴、血液検査所見、内視鏡画像を含めた画像所見、遺伝子検査結果 等

4. 外部への試料・情報の提供

データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

大阪国際がんセンター 消化管内科 竹内 洋司／嶋本 有策

石川消化器内科 石川秀樹

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪国際がんセンター 消化管内科 竹内 洋司／嶋本 有策

住所：〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

研究責任者：

大阪国際がんセンター 消化管内科 竹内 洋司

研究代表者：

大阪国際がんセンター 消化管内科 竹内 洋司

研究事務局：

大阪国際がんセンター 消化管内科 嶋本 有策

-----以上